

「裁判員制度は入らな  
い！大運動」の事務局長だ  
った佐藤和利さんが六月  
一五日に亡くならまし  
た。享年六二歳の若さでし  
た。佐藤さんは「大運動」  
の発足当初から新宿ワシ  
ントンホテルのご自分の法律  
事務所を運動の事務所とし  
て提供してくださり、専従  
の事務局長として相馬さん  
を事務所に受け入れて頂く  
など、物心両面の大黒柱と  
して「大運動」を支えて頂  
きました。

実は佐藤さんは三〇代で  
胃癌を発症され、全摘手術  
を受けられましたが、持ち  
前の強い精神力を発揮して  
病を克服され、弁護士とし  
て縦横無尽の活躍をされた  
人でした。三五年間の弁護  
士としての活動は平凡な弁  
護士にはとても真似のでき  
ないものでした。多くの専  
門家をチームとして率いる  
独特のスタイルで、次々と  
倒産会社の再建と事業再生  
に力を発揮されたようです。  
難しい紛争も、事件に対す

る持ち前の読みと天才肌の  
ひらめき、人一倍の努力  
で次々に解決に導かれ、そ  
の力量は多くの後輩弁護士  
の憧憬の的でもありました。  
五〇代半ばには交通事故  
で首の骨を骨折する重傷を  
負いながら、これも見事に  
乗り越えられ、その後に大  
運動の事務局長を引き受け  
ていただいたことを思い起  
こせば、佐藤さんがいかに



タフな人であったかが分か  
ります。その一方で、私た  
ちが佐藤さんのことを不死  
鳥のように思っただけで、  
負担をかけてしまっていた  
のではないかと悔やまれ  
ます。いつもニコニコして  
傍にいてくれるだけで心強  
かった佐藤さんの笑顔がも  
う見られないと思うと、本  
当に寂しい限りです。

佐藤さんは、様々な人権  
課題に取り組まれました。

憲法に保障された平和的生  
存権の確立を目指す地道な  
研究活動や米軍横田基地の  
爆音公害被害者の救済にも  
尽力されました。弁護士だ  
けを増やして在野性の変質  
をねらう「司法改革」に対  
して反対の論陣を張られま  
した。

裁判員制度は「司法改  
革」のもう一つの柱でした。  
裁判員制度の本質は国民に

## 「裁判員制度は入らな い！大運動」前事務局長 佐藤和利さん のご逝去を悼む

有無を言わず国の仕事を  
担わせる点にあり、憲法改  
正の動きと深く関係してい  
ます。その危険性を見抜き  
た運動は、スケールの大  
きい佐藤さんの提起で、四  
谷公会堂から日比谷公会堂  
での集会へ、さらには日比  
谷野外音楽堂での大集会と

銀座デモにも取り組めるま  
でになり、全国的な運動へ  
と飛躍的に広がりがつつあり  
ます。施行二年で制度はま  
すます行き詰まっています。  
私たちは、佐藤さんの果た  
された大きな役割に感謝し  
つつ、その遺志を受け継い  
で制度廃止まで戦い続けたい  
と思います。

最後に、一言。知る人ぞ  
知る、あのF1レーサー、  
佐藤琢磨選手は佐藤さんの  
一粒種です。佐藤さんは「子  
どもには何も残さず逝きな  
さい」という著書のなか  
で、「お金ではない、本当  
に価値のあるものを残すべ  
きだ」「この世に生きた証  
は子供の中に「夢」という  
形で託せばよい」と力説さ  
れていますが、その言葉通  
り見事に人々に夢や希望を  
与える宝物を残されました。  
一人息子を世界に羽ばたく  
プロレーサーに育て上げら  
れたことも佐藤さんの立派  
な仕事でした。

佐藤さん、本当によく頑  
張りましたね。どうか、安  
らかにお休み下さい。

(弁護士 中本源太郎)